

がん検査(AICS) テーマにセミナー

日本代協阪神ブロック協議会 公開講座を開催



会場の様子



塩谷ブロック長

開催にあたり、塩谷広の公開講座もその一環と志ブロック長が「損害保として開催した。本日は、

険代理業協会は、損害保わずかな採血で複数ののがん可能性を検査できるAICSの仕組みと、医療現場でのデータをもとに、検査結果後の具体例を交え、その検査の開発者および神戸低侵襲がん医療センターの先生方に分かりやすく解説してい

5CCの血液採取で 複数のがんの可能性検査

日本代協阪神ブロック協議会(大阪代協、兵庫代協、和歌山代協)は、10月3日午後6時30分から、大阪市阿倍野区の阿倍野区民センター小ホールで、「アミノインテックス がんスクリーニング検査(AICS)」をテーマに公開講座を開催した。これには一般をはじめ、代協会員、保険会社などから161名が参加した。



安東氏

ただ、せひ、周りの方々にも情報提供していたければと思う」と挨拶した。

公開講座Part1では、味の素(株)アミノサイエンス事業本部の安東敏彦氏が「アミノインテックス技術の成り立ちと今後の展望」について講演を行った。同氏は、健康状態により血液中のアミノ酸のバランスが疾患によって特徴的な変化することに着目し、男性5種

早期発見・早期治療が死亡率減に



石田氏

類(胃がん、肺がん、大腸がん、すい臓がん、前立腺がん)、女性6種類(胃がん、肺がん、大腸がん、すい臓がん、乳がん、子宮がん・卵巣がん)についてその可能性を評価できる「AICS」検査を開発したと述べた。

AICSは、それぞれのがんについて、現在がAICSの3段階に分類し判断するもので、その検査は5ccの採血だけで前述のすべてのがん検査を行うことができる。

さらに同氏は、平均寿命が延びる昨今においてはいかに健康寿命を延ばすかがポイントであると指摘。そのためには、加齢に伴う筋肉量の減少を抑えることが大切であると力説した。

しかし、日本におけるがん検診受診率は、平成28年調査では男性が50%弱、女性は肺がんを除き40%にも満たず、国が掲げる目標の50%に届いていないのが現状である。とくに大阪のがん検診受診率は胃がん、肺がん、大腸がん、乳がんにおいて全国ワースト1となっている。

アンケート調査では、検診受診をしない理由として、時間がない、費用がかかるなどが多くを占めているが、短時間で、しかも2万7000円の費用だけで複数のがん検診を簡単にできるAICSは検診受診率を高める効果が期待できると述べた。また、がん発見率についても、AICSは0・94%であるのに対し、人間ドックは0・26%となっており、AICSの有効性の高さをアピールした。

最後のPart3では、神戸低侵襲がん医療センター放射線治療科部長の西村英輝氏が「神戸低侵襲がん医療センターでの放射線治療について」説明した。

日本の医療業界では、がん治療に関しては手術至上主義が取られており、放射線治療は3分の1でしか行われていない。そのような中で、同センターは放射線治療しか行わない唯一のがんセンターとなっている。

同氏は、放射線治療の適応となるトモセラピー、サイバーナイフ、強度変調放射線治療(IMRT)、粒子線治療などのそれぞれの治療方法の特徴を説明するとともに、がん細胞に対しより効果的に照射できるように放射線治療機器の開発が進んでいることを紹介した。



西村氏

さらに同氏は、平均寿命が延びる昨今においてはいかに健康寿命を延ばすかがポイントであると指摘。そのためには、加齢に伴う筋肉量の減少を抑えることが大切であると力説した。

しかし、日本におけるがん検診受診率は、平成28年調査では男性が50%弱、女性は肺がんを除き40%にも満たず、国が掲げる目標の50%に届いていないのが現状である。とくに大阪のがん検診受診率は胃がん、肺がん、大腸がん、乳がんにおいて全国ワースト1となっている。

アンケート調査では、検診受診をしない理由として、時間がない、費用がかかるなどが多くを占めているが、短時間で、しかも2万7000円の費用だけで複数のがん検診を簡単にできるAICSは検診受診率を高める効果が期待できると述べた。また、がん発見率についても、AICSは0・94%であるのに対し、人間ドックは0・26%となっており、AICSの有効性の高さをアピールした。

最後のPart3では、神戸低侵襲がん医療センター放射線治療科部長の西村英輝氏が「神戸低侵襲がん医療センターでの放射線治療について」説明した。

日本の医療業界では、がん治療に関しては手術至上主義が取られており、放射線治療は3分の1でしか行われていない。そのような中で、同センターは放射線治療しか行わない唯一のがんセンターとなっている。

同氏は、放射線治療の適応となるトモセラピー、サイバーナイフ、強度変調放射線治療(IMRT)、粒子線治療などのそれぞれの治療方法の特徴を説明するとともに、がん細胞に対しより効果的に照射できるように放射線治療機器の開発が進んでいることを紹介した。